

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1170700163		
法人名	株式会社ユニマツリティアメント・コミュニティ		
事業所名	岩槻ケアセンターそよ風		
所在地	埼玉県さいたま市岩槻区飯塚1280-3		
自己評価作成日	令和4年4月8日	評価結果市町村受理日	令和5年9月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和4年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様一人ひとりの生活のリズムを大事にしている。朝起きる時間から食事の時間、就寝までその方にあった生活リズムで過ごしていただいている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者中心に動くことが徹底され、職員間でお互いに学び合いながら、個々の入居者の生活ペースを理解したケアに努め、「技術より心を育てる」の考えのもと、入居者と職員が家族のようなつきあいがなされ、入居者はのびのびした自由な生活を送られている。コロナ禍にあっては、職員が様々なアイデアを出し、感染対策にも気を配りながら、フロア毎にイベントを開催したり、花見や外食にも出かけられている。</li> <li>・運営推進会議は、現在感染防止対策から会議は中止されているが、今後は従来の参加者に報告書や広報誌の「そよ風通信」を送付し、意見や要望を聴き取る方向で検討されている。</li> <li>・目標達成計画については、行事だけでなく日常生活の様子を通信に載せて家族に配布すること、自治会や地域住民とコミュニケーションを図り、災害時の協力体制を築くことを取り上げ、大きな進捗は見られなかったが、災害時の協力について自治会とのパイプ作りが進んだことなどの成果は見られる。</li> </ul>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	理念の共有はしているが、職員がどれだけ理解できているか、人によりまちまちである。事務所に掲示してある。	入居者中心に動くことが徹底され、職員間でお互いに学び合いながら、個々の入居者の生活ペースを理解したケアに努められている。方言なども交えた明るく楽しい会話、アットホームな事業所運営が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により地域との付き合いは減っている。以前は行事に地域の方々を招待していた。	これまでは地域のボランティアなどを多く受け入れ、地域で行われる行事へ参加されていたが、現在は、近隣との交流が制限される中、周辺の散歩や挨拶、ドライブなどの支援が家族の協力を得ながら実施されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響により、以前のように勉強会を開くことができなくなっている。今後別の方法を検討していく。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの状況がよくなり、開催自体が難しくなっている。今後オンライン会議等での開催を検討している。	運営推進会議は、現在感染防止対策から中止されている。家族等から事業所への要望が寄せられ、今後は従来の参加者に報告書や広報誌の「そよ風通信」を送付し、意見や要望を聴き取る方向で検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の担当者の方と連絡を取っている。来所されることもある。	市担当課とは双方向での日頃から連携が図られている。感染症予防対策でのマスク、消毒液の配送、給付金やワクチン接種情報などがスムーズに受け取られ、更に日常の各種提出書類についても適宜アドバイスをいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会、委員会の実施により正しく理解しており、身体拘束をしないケアを継続できている。	身体拘束廃止と虐待防止については定期的に委員会を開催し、議事録も作成されている。職員間では日々のケアの中で常に入居者に寄り添い、一緒に考え行動することが徹底され、身体拘束に頼らないケアが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会の実施、日々のラウンド点検により防止できている。職員間でもお互いに気を付けながら仕事ができている。	/	/

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し、理解は深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居日に十分説明を行い、納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様の意見や要望はセンター長、管理者に報告しており、申し送りなどで皆で共有するようにし、反映させている。	入居者からは買い物や外食に行きたいなどの要望のほか、誕生日には食べたい物をリクエストしていただき、それぞれに対応されている。家族からは「本人の様子が知りたい」、「そよ風通信作成を手伝いたい」などの申し出があり、様々な対応方法が検討されている。	家族にとって日頃の入居者の様子を知ることが楽しみであると想定されることから、日常の姿を写真にとり、普段の生活ぶりを家族にお知らせする手段を工夫されることに期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター長、管理者が自ら現場に入ることにより、いつでも意見や提案のできる体制となっている。	ホーム長や管理者が現場に出られ、一緒に考え話し合い、ケアの「心」を育てる指導がなされている。職員からの疑問や提案は全体会議や申し送りノートを活用し、自由に意見が言い合える環境が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの状況に応じて、仕事量の調整を行っている。やりがいがあるようなポジションを任せている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修への参加を掲示板に張り出し、促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響により難しくなっている。オンラインで開催されている研修へ参加した。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初日から職員間で細かく記録に残し、情報を共有することで、ご本人に安心して頂ける関係づくりができています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初日より困りごと、要望に耳を傾け、良好な関係が築けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族の声に耳を傾け、その時最も必要であるサービスの提案、ができています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築きやすいような環境作りができています。席、居室の配置に気を使っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と本人の面会の際にも職員が間に合えることにより良好な関係づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響により外出、外泊の機会が極端に減っている。	手紙や携帯電話の取次ぎなどの支援が継続されている。また、馴染みのかかりつけ医との会話なども大切にされ、カラオケで昔の歌を楽しまれたり、家族の協力で馴染みの場所へドライブに出かけるなどの支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性を理解し、孤立しないような席の配置をとっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してからも、連絡を取り合っている。必要に応じてアドバイスもさせていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向を行動などから把握できている。一人ひとりの声にも耳を傾けている。	それぞれの動きや言動に沿い、その人の好きな話題から話をするなど、気持ちの壁を低くしながら思いや意向の把握に取り組まれている。「あなたのために」の気持ちを見せ、「どうしてここにいるのか」、「○○がしたい」などの入居者の悩みにも応えられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入日から、生活歴、なじみの暮らし方についての情報共有ができています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察を行い、申し送りノートで共有し、職員全員で現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて話し合いをし、現状に即した計画の作成ができています。	入居者自身がどうしたいのか、職員はどのようにするかを十分反映されたケアプランが作成されている。入居者・家族のニーズと目標、サービス項目に一貫性があり、現状に即した支援内容が盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をノートに記録し情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じて、柔軟な対応を心がけている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全な生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの往診医による定期的な往診を受けることで、適切な医療を受けられる体制をとっている。	かかりつけ医への受診時には職員が付き添い、医師との情報交換を行うなど、職員の責任感の向上にも繋がられている。協力医療機関も含めて、医師からの情報はその日の申し送りノートに記載され、全職員に周知がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師の訪問時に、状態を伝えることで、適切な対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナの影響により、入院した方の状態の把握が難しかった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた早い段階で、ご家族様に十分な説明を行っている。	終末期や看取りに際しては管理者だけでなく職員も関わりを持ち、「入居者・家族はそのときどうしたいのか」の経験を積み上げられている。家族と職員間での話し合いを通して、できる精一杯のことをさせていただきよう取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を通じて定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナの影響により、地域との協力は難しくなった。日中、夜間想定での災害訓練を定期的に実施している。	日中、夜間想定での定期的な訓練が実施され、水害発生時の上階への避難方法も検討されている。コロナ禍で地域との連携協力が困難な中、地域の避難場所として事業所を開放する取り組みについて自治会長との連携を図る方向で検討をされている。	自治会長や地域包括支援センターなどとの話し合いを重ね、災害発生時の協力連携体制を作り上げていく取り組みに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように気を付け発言している。	1人ひとりのこれまでの生活歴を尊重した対応に努められ、言葉使いなどもそれぞれに合わせて使い分けられている。また、居室の環境づくりでプライバシーの確保にも取り組まれ、家族とも相談し、出入り口にカーテンを付けるなどの支援がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由な生活をしていただき、本人の思いを理解し必要に応じて助言させていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	業務ではなく、利用者様の自由、行動を優先した対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方には環境を整えている。難しい方にはこちらからお声がけを行い、髪をとかず等行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握しており、必要に応じて嫌いなものは別のメニューを提供している。	入居者の好みを優先し、メニュー作りや食材発注を行い、専門の職員が調理が行われている。月1回の行事食などは、自前で花見弁当を作って提供されるほか、外食なども家族の協力を得ながら支援をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分量は把握できており、状態に応じて柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにより、口腔ケアを実施していただいている。できない方は介助にて行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、トイレへ誘導し、トイレでの排泄を促している。	トイレでの排泄を基本に入居者の動きから察して、一人ひとりに合わせた声掛け誘導が行われている。入居後、自分で排泄のタイミングを理解できるようになり、リハビリパンツから布下着使用に変わった入居者の事例も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整により、定期的な排便を促している。リハビリ体操もかなりの方が参加されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて、入浴して頂けている。	個浴でタフの入浴支援が基本とされ、できるだけ入居者のペースでゆっくり入浴していただいている。入浴時には入居者と会話をされたり、皮膚や健康状態の観察を行い、また、浴室や脱衣場のヒートショック対策にも注意が払われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室へ誘導する時間をその日の利用者様の様子を見て誘導することで、気持ちよく入眠できるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は飲んでる薬の把握ができており、症状の変化があれば適宜、かかりつけ医に相談ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、レク、行事、外出などの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により難しいこともあったが、外食、買い物等の支援を行うことができています。	コロナ禍でもできるだけ外に出るよう支援がなされ、近くの公園や神社などへ散歩に出かけられている。できるだけ入居者の希望にも応えられ、ドライブで花見を楽しまれたり、家族の協力を得ながら買い物などにも出かけられている。	

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人にお小遣いをお渡しし、希望に応じて買い物職員がおこなった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話を掛けたり、手紙をだすなどの対応ができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けを行っており、季節感を感じながら生活して頂いている。	生活感、季節感が感じられる環境が作られ、入居者は自然に食堂に集まり、会話をしたりテレビ観るなど自由に過ごされている。廊下には途中に座れる場所を設け、そこで話をしたりする光景も見られ、席次も相性を見ながら配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりにあった席の配置に気を配っている。状況に応じて配置を変えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にいた時のような環境作りを心がけている。畳で生活されていた方は畳に布団を敷いて対応している。	自宅に近い環境が整えられるよう、鏡台や冷蔵庫、テレビ、携帯電話などが持ち込まれている。居室内では好きな本を読まれたり、好みのテレビ番組を楽しまれるなど、入居者個々のペースで自由に過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の自由を尊重して、行動を制限することなく、行きたい場所へ行けるようになっている。見守りを行うことにより安全に建物内を移動できている。		

(別紙4(2))

事業所名: 岩槻ケアセンターそよ風

## 目標達成計画

作成日: 令和 4年 5月 10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	入居者様の日頃の様子を知りたいとご家族は思っている。	日常生活の様子をご家族に知らせて安心していただく。	・そよ風通信の中に、日常生活の様子をのせてご家族に配布する。 ・特に面会のしほりもない。	1ヶ月
2	35	災害時の地域との協力体制がまだまだ確立できていない。	地域の方達との協力体制を築き、災害時の連携をしっかりと行なっていく。	自治会、地域包括支援センター、民生委員の方達と連携体制を作り、災害発生時の協力体制を作り上げる。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。